

大学におけるキャリア教育の意義と方法

桐村 晋次

1. 研究の背景—キャリア教育の必要性

キャリア教育は、次のような理由で学校教育の重要な課題となってきた。

- ① フリーターやニート、進路を決められない若年層が増加し、また就職後短期間の離職者も多いことから、若年層の労働観、人生観の育成・充実や就労支援が求められていること。
- ② ワーク・ライフ・バランスやファミリー・フレンドリーなど人生と仕事のバランスを考える発想が広がり、働き方が多様化してきていること。
- ③ 企業の倒産、合併・統合、事業の縮小や移転などによって、会社都合による離職も多く、新たなキャリアを開発しなければならない状況が続いており、自分の進路をどう切り拓くかについて学ぶ必要が出てきていること。
- ④ 終身雇用や年功制などの日本的経営の修正が始まり、成果主義が導入され、エンプロイアビリティの養成が求められ、生涯にわたる職業能力の開発が求められてきていること。
- ⑤ 企業が雇用ポートフォリオという考え方を取り、コスト削減や人員数調整を狙いとして、パートや派遣労働者等の非正規労働者の比率を高めてきており、雇用がいつ不安定になるか予測しがたい状況になってきていること。
- ⑥ 若年層が自分のキャリアについて考え、「なりたい自分」に向けて学習計画を進めることによって学力が飛躍的に伸張したという事例が報告され、社会の関心事となってきたこと。
- ⑦ 文部科学省や厚生労働省が、若年層のキャリア教育や就労支援の政策を推進し、高等学校や大学で様々な試みが始まり、関連する学会においても研究や議論が盛んになってきており、学校におけるキャリア教育への期待が高まってきていること。

⑧ 日本経営者団体連盟（現、日本経団連）が、2001年10月に「エンプロイヤビリティ形成・向上のための産学連携教育の推進—大学・大学院における社会人教育および大学におけるキャリア教育」をまとめ、「大学におけるキャリア教育の充実—①大学内キャリアセンターの設置と機能の充実、②インターンシップのプロモーション、③職業観・勤労観を養うための講座の設置、④エンプロイヤビリティ形成に主眼を置いた授業の拡充」を提出した。同じ頃、首相の私的諮問機関である教育改革国民会議や中央教育審議会の答申、文部科学省、厚生労働省や内閣府等からもキャリア教育の充実が提言され、いくつかの大学で「キャリア・デザイン」「ライフ・デザイン」等の学部、学科も設置され、また「キャリア形成論」等の講座が多くの大学で開講されてきていること。

2. 研究の目的と方法

(1) 研究の意義と目的

① 大学生のキャリアに関する現状と意識を調査（「キャリアに関するアンケートⅠ」）し、キャリア形成の上で何が問題なのか、大学生自身は何を求めているのかを把握して、大学生のキャリア形成の支援方法について考えてみる。

② 「キャリア形成論」の授業で、開講時に受講学生を対象にして学生の意識調査「キャリアに関するアンケートⅠ」を実施したが、3ヶ月半後の授業終了時にどういった変化があったかについて、同一項目で再度アンケート調査（「キャリアに関するアンケートⅡ」）を行なった。授業の他に、他の科目による学習・学生個人の自主的学習やアルバイト等の社会的体験、家庭環境の変化など複合的な要素の影響があると考えられる。

③ 「キャリア形成論」のどの項目（テーマ）の授業が、学生に刺激を与え、役立っているのかにつき、項目ごとにアンケートによる評価をとった。講義の内容、教える側のプレゼンテーション能力、学生の参加方法など授業の進め方、また学生側のレディネス（授業を受ける準備度）の高低にも影響されるが、講義という知的なサービスの受け手である学生の評価を参考にしてFDの進め方に役立てたい。

(2) 研究の方法

① 調査の対象者

神奈川大学経営学部のキャリア形成論受講生。回答者は授業開始時（2004年9月）

223名。授業終了時（2005年1月）165名。

② 調査の方法

質問紙によるアンケート方式。

授業開始時は、キャリアに関する27の設問に、授業終了時は、27問中授業による影響があると考えられる23問に、5段階評価で回答する。無記名。

評価点 評価

- 5 とてもそうである
- 4 かなりそうである
- 3 どちらともいえない
- 2 あまりそうではない
- 1 まったくそうではない

授業終了時のアンケートをとる際に、アンケートの精度を高めるため、授業の出席率が良くない人は回答しないように指示した。

とくに、授業の項目（テーマ）については、「講義を受けなかった項目は、回答しないこと」をアンケート用紙に明記した。

(3) 期待される結果

アンケートにより、現状と問題点を把握し、それに対する対策を検討する。

3. 研究結果とその分析

(1) 「キャリアに関するアンケートⅠ」について（第1表）

アンケートの回答中、「5」と「4」が意識が高い層（以下「高意識」という）、「3」が中間層、「2」と「1」が意識が低い層（以下「低意識」という）として分類する。

問1の「自分の将来の職業（進路）は、決まっているか」については、高意識39%、中間層28%、低意識33%でほぼ3分割される。本学部志望者の中には、学部選択に際して目的意識が明確になっていた者と、大学でそれを見つけない者が、それぞれ3分の1強いると考えられる。前年度全学で実施された学生による授業評価の際に、「キャリア形成論」は、実質的に授業に対する反応である12項目中、8項目が「4」以上で平均でも「4」に達していることから、1年後期に「キャリア形成論」を開講していることは学生に歓迎されていると考えてよいのではないだろうか。

問2の「自分の将来の職業（進路）について考えることがあるか」については、86%が高意識であり、低意識は4%に過ぎない。フリーターやニートの予備軍とは明らかに異なった学生層が入っていると期待される。

問3の「自分の長所や適性について考えることがあるか」については、高意識が7割であり、人生設計の第一歩である自己理解へ積極的に取り組もうとしていると考えられる。しかし、低意識が1割もいることは気になる点である。

問4の「自分の長所や適性」については、42%が「理解している」と回答しており、問3の「長所や適性について考えることがあるか」という数値の6割に留まっている。しかし、1年次ということを考慮すると、自分について考えている学生の割合はかなり高いと言えるのではないだろうか。これに関連して問6の「長所や適性について友達と話し合うことがある」は、高意識が4人に1人であり、自分の長所や適性について考えている割には、友達と話し合うことが少ない。自分の進路や人生について思索し、友人と語り合い、悩みつつ生き方や職業を見つけていくという青年期の課題に正面から取り組むということが出来ず、未成熟なまま成人期に入り、社会に出た後で多くの課題を抱えることになるプロセスが伺える。友人と将来の夢や希望、仕事・社会と人生観などを語り、相互に刺激を受け啓発し合う場の設定が、キャリア教育の重要な課題であると思われる。

問5の「自己分析テストや職業適性テスト」は、高意識が60%で、入学時の就職部による自己理解テスト等により自分への関心が深まっていると考えられる。しかし、大学1年次とは言え低意識が3割近くに達していることは見逃せない。大学側が、入学時点で何のために自己理解テストを実施しているのかについて、授業や演習（ゼミナール）を通じて意識を向上させる努力が全学的に求められていると言えよう。これは、コース選択→進路選択→ゼミの選択→インターンシップ→就職活動につながる重要な第一歩であろう。自己理解は、人生と仕事を考えたり進路について考えることと深いつながりを持っている。

問7の「職業の種類や内容」については、3割が高意識であるが、低意識も26%で2極に分かれている。

問8の「職業の種類や内容についての教育」については、34%が受けたことがあるが、受けたことがない者が5割で2人に1人に達しており、問7および問8から本学部生が主として進学校出身者で高校時代は大学受験以外に精神的、時間的余裕がなかった状態が想像される。高校までの職業教育のレベルの低さと、大学選びに際して将来の進路との結びつきが希薄であることが感じられる。

問9の「仕事と人生」や「働くことの意味」については、考えている者が6割強であり、大学生になって仕事や人生について思索し始めていることが伺えるが、これについて「友達と話し合う」者(問10)は、3割弱で考えている者の半数に充たない。問3の「自分の長所や適正」と同様に、自分では考えているが友達と話し合うまではなっていないのであろう。

問11の「職業経験」については、87%が高意識であり、アルバイトが学生生活の日常に密接に結びついていることを伺わせる。低意識が9%いるが、年次が進むにつれて減少していくものと思われる。

問12の「自分の将来の職業(進路)を考えるために、職業の体験(アルバイト等)をしたいかについては、85%が高意識であり、低意識は6%に過ぎない。自分の将来の職業(進路)を念頭に置きながら、インターンシップやアルバイト等の啓発的職業体験をしたいという意欲が感じられる。適切な進路相談やキャリア・コンサルティングが求められる。

問13の「中学・高校時代の進学以外の進路指導」については51%の人が「あまり」、「まったく」受けたことがない、と答えている。今日の学校教育では、進学指導が優先されていて進学を含めて進路全体について学んだり、考えたりする機会が少ない、ということであろう。問8の「職業の種類や内容についての教育」の貧困さと同じで、生き方や仕事観を養成する教育が忘れられ、進学のための受験教育にのみ目が向けられているのであろう。何のために学習するのかを考えることなく受験競争に追い込まれて、学ぶ目的意識や意欲を持たずに大学に来ている学生が増えているのは、ここに原因があると思われる。大学では、人生観や仕事観をきちんと見据えた人材作りを考えていかなければならない。

問14の「職業選択や進路(就職、大学院進学)について親と話し合ったこと」については、72%が話し合っており、話し合っていないのは16%である。また、「友達と話し合ったこと」(問15)については、57%が話し合っており、話し合っていないのは21%である。友達とより親との関係が近いことを感じさせる。

親との間に距離を置き、親には話が出来ないが友達とは話せるという青年期の行動に変化が出て来ているようにも思える。授業中にレポート課題を出した場合、欠席した学生が友達に聞かずに、次の授業終了時に教師に直接「先週欠席したのでレポート課題を教えてください」と言ってくるのが少なくない。企業に入ってから、若年層間のコミュニケーション作りが出来ずに、上司と部下の関係の方が円滑に行く者も珍しくない。タテ社会の人間関係が強くなってきているのであろうか。親離

れ、子離れの問題とも関係がありそうである。

問16の「将来の職業を考えて、学校の授業計画を立てている」者は、43%で「立てていない」は21%を上まわっている。将来の職業（進路）は明確には決まっていないものの、大卒の方向を考えながら学校での学び方を考えているということであろう。1年次ということ考えると、まずまずの数値であろう。中間層が35%であり、この層を高意識に近づける工夫が望まれる。

問17の「将来の職業を考えて、学校以外の場における学習計画を立てている」者は26%で、「立てていない」45%の方がはるかに多い。大学生活においては、学校における学習だけでなく、学外における自助努力が大切なこともゼミなどを通じて学生に意識を持たせることが必要である。

問18の「国家資格や検定の資格を取る計画」は、高意識が7割近くに達しており、低意識は12%だけである。資格取得が就職に有利になるという情報が学生の中に流れており、企業は即戦力を求めており、資格はその証明になるという誤解がある。即戦力が必要ならば、専門学校生を採用すればよい。将来の自分の進路に必要な資格や英語力の検定等は、時間と金をかける意味があるだろうが、大学卒者に求められているのは高校卒や専門学校卒とは異なった巾広い教養、論理的思考力、多角的な視野、リサーチ力、コミュニケーション能力など身に付けるのに時間がかかる能力で、将来企業の中で同世代のリーダーになる基礎的な能力である。

大学におけるキャリア形成の支援のための教育は、職業観、人生観、キャリアデザインの構築などによって、社会への参加と貢献、仕事を通しての自己実現を学生に考えさせることである。

問19の「履歴書の書き方や面接の受け方についての授業」は、高意識が36%、低意識53%である。法政大学キャリアデザイン学部2年生を対象に昨年4月に行った調査（以後「法政調査」という）では、高意識18%、低意識72%で本学の方が高い。本学部生の方が、実践的教育を受けるチャンスがあったということだろうか。

問20の「インターンシップとは何か」については、高意識45%であるが「まったくわからない」も3人に1人であり、「2」評価の14%とあわせると45%になり、2人に1人はインターンシップについて1年後期になっても関心を持っていない。仕事と人生というような青年期の基本課題についての取組みを、教学サイドとしても真剣に考える必要があるだろう。

問21の「社会で活躍した人が如何にして自分の能力を高めてきたか」については、84%が「知りたい」と答え、低意識は6%である。問25の「社会で活躍した人の伝

記や自叙伝を読みたいと思いますか」は、48%が「読みたい」と回答し、21%が「そうではない」と答えており、問21と問25の間で社会で活躍した人の能力開発や活躍した方法は知りたいが、自分で本を読もうとはしていないという大きなギャップがある。学習方法についての理解が未成熟であるが、関心は持っているので、授業などで自己開発の進め方について指導すれば効果が出ると思われる。

問22の「職業の選択や進路（就職、大学院進学）の専門家がいたら相談したいと思いますか」については、85%が「相談したい」と答え、低意識は4%に過ぎない。学生はキャリア開発の相談が出来る人を強く求めていることが分かる。

問23の「フリーターもひとつの進路として考えられますか」については、「考えられる」が16%、「考えられない」が7割である。「法政調査」によると、「考えられる」が23%、「考えられない」が54%で、本学部の学生の方がフリーターについてシビアな見方をしている。財団法人経済広報センターの「若年層の就労に関するアンケート結果報告書」（2004年6月）によると、「フリーターとして働くことには問題がある」という回答が全体で71%となっており、29才以下は50%だが世代が上がるにつれてその割合が増加し、60才以上では80%以上を占めている。同報告書によると「フリーターとして働くことに問題はない」と回答した学生回答者は38%に達しており、本学部生はきわめて堅実な考え方をしていると判断される。

問24の「派遣労働もひとつの進路として考えられますか」については、肯定23%、否定52%で学生がフリーターと派遣社員を明確に区別して認識していることがうかがえる。この数値は、「法政調査」の「フリーターに関する問」への回答にきわめて近い。フリーターと派遣社員の違いについては、非正規労働の増加と雇用形態の多様化などをアルバイト体験等によって理解を深めているのであろう。

問26の「職業の選択や進路について先輩の話を聞きたいと思いますか」については、「聞きたい」が76%で、低意識は9%である。

また、問27の「祖父母の話を聞きたいと思いますか」についても、「聞きたい」が5割である。学生は、キャリア相談の専門家、先輩、親の話を聞き、参考にしたいと望んでいる。キャリアの相談を受ける人の専門性の向上と、学生がキャリア相談に気軽に行くシステムの構築が進められなければならない。

(社)日本私立大学連盟の報告書「大学教育と就職支援—大学の変革に向けて—」(2001年9月)は、授業履修の相談体制について、次のように述べている。

『教員の学習支援活動として、まだ問題意識の浅い学生に対する履修アドバイスがあげられる。科目履修の段階から学生との密なコミュニケーションを取りながら、

学生の社会的な関心や問題意識を引き出し、それをベースにして、幅広い専門的知識の習得を助言していくべきである。

最近、複数のコース制設定による多くの必修科目群の履修という伝統的な履修方法から、カリキュラムの履修において学生の自由選択の幅を広げる努力がなされている。ただ、自由選択の余地が広がると、どうしても教員が積極的に学生の履修科目の選択活動に入っていくかざるを得ない。積極的に相談相手になり、履修について助言を与えなければ、学生時代の貴重な時間が浪費される危険性がある。未熟な学生がよくわからないままに、たとえば単位習得が容易であるとか、時間的に都合がよいとかという理由だけで、関心も学習意欲もないのに科目履修すれば、学生の能力はほとんど鍛えられないからである。

特に、就職活動に直接つながるような社会的な問題を扱う科目の履修については、学生の将来への夢や期待を引き出しながら、学生時代に習得しておくべき総合的な知識と専門科目群の選択履修を学生に助言することが望まれる。教員の助言をもとに、選択履修した科目群の学習を進めていくと、将来の進路がますます明確になっていく場合がしばしば見られる。それだけ、教員の助言が学生の将来設計にとって重要な役割を果たしている。』

(2) 「キャリアに関するアンケートⅡ」および授業前後（授業開始時／終了時）の比較について（第1、2、3表）

問1の「自分の将来の職業（進路）は、決まっているか」についてアンケートⅡ（授業終了時）では、高意識41%（前回39%、以下（ ）内は前回）、中間層32%（28%）、低意識27%（33%）で3分割されているのは前回（授業開始時）と同様であるが、少しずつ高意識にシフトし、「1」は11%→5%に減じた。

問2の「自分の将来（進路）について考えることがあるか」については、高意識89%（86%）、中間層9%（10%）、低意識2%（4%）であるが、「1」が0%になった。

問3の「自分の長所や適性について考えることがあるか」については、高意識71%（70%）、中間層24%（20%）、低意識6%（10%）で、少し高意識にシフトした。とりわけ「5」が22%→30%となり、3人に1人は自己分析への思策を深めつつあると思われる。

問4の「自分の長所や適性について理解」は、高意識42%（42%）、中間層38%（40%）、低意識20%（18%）で、変化が見られない。授業によって、自己理解が不足していることを認識したことも考えられるが、指導にもうひと工夫しなければな

らないと反省される。問3の「長所や適性について考えることがある」の高意識は71%もあるので、自己理解のための授業方法の改善を急がなければならない。これに関連して問6「長所や適性について友達と話し合うことがある」は、高意識が32% (25%) に伸び、3人に1人は友人との話題に取り上げており、進路や適性というテーマが学生生活に入り込みつつある様子をうかがわせる。

問7の「職業の種類や内容」については、高意識が29% (31%) で「1」は6% → 4%に減じた。アルバイト等の社会体験が職業理解を深めるのに役立っていると考えられるが、社会体験によって自分の理解の浅さを認識する結果になっているのであろうか。

問9の「仕事や人生」や「働くことの意味」について考えることは、高意識が65% (62%) で、低意識は16% → 9%に減じた。これについて、「友達と話し合う」者は、高意識が28% → 32%に増え、「1」が21% → 13%に大きく減じた。仕事、人生などの青年期の発達課題に向き合う姿が増加しつつある様子が窺える。

問11の「職業経験」については、高意識84% (87%) で、アルバイトが今日の学生生活と深く結びついていることが感じられる。

アルバイトをした時期および職種については、次のようである。

- 小学校、中学校（実家の農業等の手伝い）…… 4人
- 高校…… 31人
- 浪人…… 1人
- 大学1年生…… 87人
- 大学2年生…… 2人

コンビニ (17人)、スーパー (16)、飲食店 (9)、居酒屋 (7)、家庭教師 (4)、引越し (4)、ホテル (3)、運送 (3)、焼肉屋 (3)、マクドナルド (3)、派遣バイト (3)、郵便配達 (3)、パン屋 (2)、ケーキ屋 (2)、レンタル屋 (2)、レストラン (2)、本屋 (2)、販売員 (2)、電器店 (2)、リネン、家業 (農業)、懐石料理店、ウェイター、ウエイトレス、映画技師、コーヒーショップ、薬局、ホームセンター、塾、映画館、ダンゴ屋、プール監視員、受付け、ケンタッキー、倉庫内のピッキング作業、ブティック裏方、テニスのコーチ、スーパー、ガソリンスタンド、家業 (生コン)、テーマパーク、住宅ハウスメーカー (お茶くみ)、ゲームセンター、結婚式場、ディスカウントショップ、カラオケ店、旅館

問12の「自分の将来の職業 (進路) を考えるために、職業の体験 (アルバイト等) をしたいといますか」については、高意識が88% (85%)、中間層6% (9%)、

低意識6%（6%）で、前回調査とあまり変わりはない。

問14の「職業の選択や進路（就職、大学院進学）」について親と話し合ったことについては、高意識74%（72%）で、あまり変化はないが、「1」が7%→3%に減じた。

また、「友達と話し合ったこと」（問15）についても、高意識が59%（57%）で変化はないが、「1」が8%→4%で半減した。人生や仕事のテーマ（問9、10）と同様に、高意識が少しだけ伸びているが、グループワーク等の場を作り友人と議論する習慣を作り出す必要があると思われる。

話し合うテーマについて見ると、「人生と仕事」の高意識が、友人との間では31%（28%）であり、「職業の選択や進路」の高意識は、親との間では74%（72%）、友人との間で59%（57%）であり、親と友人という話し合いの対象によってもかなり違いが出ている。本学部生は親との距離が近いとも考えられる。しかし、友人より親との話し合いの率が高いのは、親への依存度が高いとも考えられる。

問16の「将来の職業を考えて、学校の計画を立てて」いる者は48%（43%）で、前回より5%伸びた。「立てていない」は16%で前回の21%より5%改善した。

問17の「将来の職業を考えて、学校以外の場における学習計画を立てている」は38%で、前回の26%より12%も伸びた。4割の人が将来の職業を考えて能力開発に取り組んでいるのは、頼もしいことである。

問18の「国家資格や検定の資格を取る計画」は71%で、前回の69%とあまり変化がないが資格取得への関心はきわめて高いものがある。

問21の「社会で活躍している人が如何にして自分の能力を高めてきたか」については、8割が「知りたい」と回答した。前回と比し変化は少ない。これに関連して「社会で活躍した人の伝記や自叙伝を読みたいと思いますか」は、53%の人が読みたいと回答しており、前回の48%をかなり上回った。しかし、社会で活躍した人の能力開発の方法を知りたい人が8割であるのに、本を読みたい人は53%で前回同様に大きなギャップがある。

問22の「職業の選択や進路（就職、大学院進学）の専門家がいれば相談したいと思いますか」については、77%があ「相談したい」と答えているが、前回の85%より8%減少した。何故であろうか。「相談すること」と「結論が出せること」の違いに気づいたのか、自分自身で考えていくべきであると思い始めたのか、キャリアについて何か手がかりをつかめたのか、いろいろ考えられる。

問23の「フリーター」については、肯定的な意見が16%→13%になった。否定的

な見方は7割で変わらない。

問24の「派遣社員」については、肯定が23%→22%、否定が52%→51%で変化は見られない。

問26の「職業の選択や進路（就職、大学院進学）について、先輩の話を聞きたいと思いませんか」については、「5」が41%→31%に激減したが、「4」が35%→43%で、合計するとあまり差は認められない。

問27の「親や祖父母の話を聞きたいと思いませんか」については、「聞きたい」が50%→56%へ増え、低意識は23%→17%へ減じた。人生の先輩としての祖父母に対する見方がキャリア学習によって変わりつつあるのではないだろうか。レポートの作成で、祖父母の体験をまとめた者も多く、祖父母の人生やキャリア形成を聞くことによって多くのことを学んだと感じる者も多数おり、そのことによって祖父母に対する関心が深まったと考えられる。とかく希薄になりがちな親子や家族の紐帯が、祖父母のライフヒストリーを聞くことによって強化されるならば、キャリア教育は家庭教育や祖父母を通じて社会とのつながりを実感させる教育の有力な方法になる可能性を持っていると言えるのではないだろうか。

(3) 「キャリア形成論」の授業項目別の学生評価（第4表）

キャリア形成論は、2004年9月30日から2005年1月13日まで、計13回。シラバスに沿いながら適宜修正を加えた。

授業項目を次のグループに分類して、学生の評価を検討する。

1) キャリア形成の基礎

キャリアガイダンス、仕事と人生

2) キャリア形成に関する理論（レビンソン他）

生涯発達理論、産業組織心理学、キャリア理論

3) 社会の変化と働き方の多様化

経営環境の変化と企業の対応、社会が求める能力、エンプロイヤビリティ、アメリカのホワイトカラーの働き方、雇用機会均等法と女性の働き方

4) 自己理解とアセスメント

交流分析（エゴグラム）、VPI職業興味テスト等

5) 日本企業とキャリア形成

経営組織の仕組みとマネジメント理論、労働者の権利と労働法、企業内教育とキャリア形成

6) キャリアデザインの作り方、進め方

キャリア目標と仕事の選択基準、キャリアデザインの考え方、企業内のキャリア支援制度

7) 起業とアメリカの大学の教育

8) レポート「先輩の職業選択と職業能力の開発」

① キャリア形成の基礎について

キャリア開発の手順（キャリアガイダンス）は、有効71%、無効11%。自己理解や職業理解について、課題（例えば、「自分の長所と短所」）を出して3-5分ノートに書かせ、その後5-10分ほど5-6人でグループディスカッションさせた。グループワークを取り入れたので参画意識が高まったと思われる。現在、全国の大学や高校でキャリア教育が成果を上げつつあるが、福岡城南高校で1年生からキャリア教育を導入し、目的意識を持って学ぶことで希望する大学への進学率がいきよに3割アップしたケースを、VTR「あなたの夢は何ですか」を見せた後、グループディスカッションを入れた。肯定的評価が65%に達した。

② キャリア形成に関する理論について

生涯発達と青年期の課題、産業組織心理学（テイラー、人間関係論、行動科学等）、キャリア理論（パーソンズ、スーパー、レビンソン等）は、有効53%、無効9%。実社会経験の少ない学生に対しては、理論の授業は相当に工夫を要することを実感した。

③ 社会の変化と働き方の多様化について

「企業が求める能力」については、有効72%、無効4%で高い評価である。具体例や経団連等のアンケートを引用することで理解が深まったと考えられる。私自身が大学生の採用を担当していたことが役立ったと思われる。女性の働き方が変化してきたことを、プロジェクトX「女達の10年戦争－雇用機会均等法」を見せて考えさせた。有効37%、無効19%、中間層44%。母親の時代には、定年年令に男女差別があったことに驚きの声が上がった。先輩たちの努力と苦勞によって雇用機会均等法が出来たのだから、さらに女性が活躍できる社会の実現に力を尽くしてもらいたい、という解説に女子学生がうなずく姿が見られた。時間の関係で30分程度しか見せられなかったので理解が十分でない者も出たと思われる。

④ 自己理解とアセスメントについて

キャリア形成の重要なポイントである自己理解を進める目的で、交流分析のエゴ

グラム（対人的な性格分析テスト）を試みた。有効77%、無効6%。数人ずつのグループでテスト結果について話し合いをさせたところ、議論が活発であった。ホラントの開発したVPI職業興味テストは、有効77%、無効5%。これも、進路や職業と自分の適性を考えるきっかけとして十分な成果を上げた。

⑤ 日本企業とキャリア形成について

「日本の企業内教育とキャリア開発」では、組織論、労働法（労働基準法など労働者の権利を中心として）、企業内教育の現状について解説した。有効54%、無効7%。近鉄とオリックスの合併を例にして、労働組合、労働三権、選手会とストライキ等を話したら関心が深まった。自己申告、社内公募、FA制等の企業内のキャリアデザイン支援制度の現状と課題についての講義は、有効62%、無効6%。

⑥ キャリアデザインの作り方、進め方について

キャリア目標の作り方や職業選択の具体的な基準に関する考え方についての講義は、有効という回答61%、無効8%で、1年生が理解するにはやや難しいテーマであったが、職業選択の方法についての学習は出来たと思われる。

⑦ 起業とアメリカの大学の教育

今後、日本においても若者の起業が増えると思われるので、VTRでスタンフォード大学の教育風景を見せ、解説した。有効73%、無効6%で、学生の関心の高さを感じた。「1」は0%であった。

⑧ レポート「先輩の職業選択と職業能力開発」について

「一人の人を選んで、次のことを論述せよ」

①今の仕事をどうして選んだのか（これまでの職業遍歴と現在の仕事の決定要因）

②職業能力をどうやって向上させてきたのか

③現在の仕事の喜びと苦しみ

という課題の提出を求めた。

祖父母等の肉親やアルバイト先の経営者等のライフヒストリーの作成を通じて、キャリア形成に関するヒントを探し当てた学生が大勢いる。「面白かった」「将来の進路に向う勇気が出た」等の感想が出されている。有効64%、無効10%。人に会って調査することの意義についても理解が深まったと思う。

4. 考察

(1) 大学生の意識調査から見たキャリア形成に関する考察

- ① 自分の将来の職業（進路）については、決まっている者、決まっていない者、中間層で3分割されるが、決まっていない者も日頃から進路について考えている。
- ② 自分の長所や適性について考えている者は7割に達しているが、かなり理解できていると回答している者は4割であり、これについて友達と話し合っている人は3～4人に1人でさらに少ない。
- ③ 自己分析テストや職業適性テストへの理解は同年代の人達に比し高いと思われる。入学時の就職部による自己理解テスト等により、自分への関心が深まっていると思われる。
- ④ 「職業の種類や内容」については3分の1の人が理解しているが、2人に1人は高校までに教育を受けたことがない。本学部生は主として進学校出身者で大学受験以外に精神的、時間的余裕がない状態にあったと想定される。大学および学部選びに際して、将来の進路との結びつきが希薄であると考えられる。
- ⑤ 「仕事と人生」や「働くことの意味」について考えている者は6割強いるが、これについて友達と話し合っている者は約3割で考えている者の半数に満たない。自分の長所や適性と同様に、友達と意見交換する習慣が必要であろう。授業で、その必要性を言った後、数人の学生が「話し合いはどうやって進めればいいんですか」と質問にきた。話し合い方の指導や話し合いの機会が求められている。
- ⑥ アルバイトが学生の日常に密接に結びついており、自分の将来の職業（進路）を考えてアルバイトをしたいという学生も多い。
- ⑦ 「職業の選択や進路（就職、大学院進学）について」は7割以上が親と、6割弱が友達と話し合っている。友達より親と話し合う比率が高く、親との関係が近いことを感じさせる。「法政調査」では、2年次4月では親と友達との間に差がなく、2年次12月調査では「親と」が67%であるのに比して、「友達と」が79%に急伸しており、2年次の1年間の変化が大きいことを示している。高校までは友達関係を作ることが難しい環境に置かれているのであろう。社会状況と青年期の発達が深い関係にあることを窺わせる。
- ⑧ 1年次12月に、将来の職業を考えて授業計画を立てている」者は48%、「学校以外の場における学習計画を立てている」者は38%で、意識はかなり高いと思われる。「法政調査」では、キャリアデザイン学部で、キャリアに関する授業を1年間受けた後という特殊な状況であり、また自己のキャリア形成に関心を持つ学生が多い集団を対象としたアンケートであるが、2年次4月の意識調査で授業計画は58%、学校以外の学習計画43%という数値になっている。

- ⑨ 国家資格や検定資格の取得に対する意欲が高いが、資格取得＝就職に有利という風潮に影響されている面が強いと考えられる。
- ⑩ インターンシップについて関心が薄い学生が1年後期になっても45%いる。変化の時代に対応して、生涯学習と自己防衛上もキャリアガイダンス、キャリア相談、インターンシップ（啓発的職業体験）の重要性を認識させる必要がある。
- ⑪ 職業指導の専門家、先輩、祖父母の話を知りたいという意欲は高い。
- ⑫ フリーターや派遣社員についての意識を「法政調査」と比較すると、次の通りである。

		本学「キャリア形成論」1年次後期		法政「キャリアデザイン論」2年次通期	
調査時期		2004.9	2005.1	2004.4	2004.12
フリーター	肯定	16%	13%	23%	20%
	否定	70%	70%	54%	63%
派遣社員	肯定	23%	21%	33%	22%
	否定	52%	51%	37%	50%

フリーターや派遣社員について本学部生の方がシビアな見方をしている。キャリア形成に対して真面目な取組みが期待できる可能性がある。また、授業、ゼミナール、アルバイト等の社会体験、キャンパスライフなどによって学生の考え方が短期間に大きく変わる様子が見られる。

(2) 授業評価とFD

- ① キャリアガイダンスや自己理解は、キャリア形成の基礎であるとともに、人生、仕事、友情、恋愛等の青年期の課題に取り組む知識や技法、思考方法を学ぶことでもある。学生が、授業に積極的に参加するようにグループディスカッション等を取り入れ、参画型の学習形態をとることが望ましい、と思われる。
- ② キャリア形成に関する理論の講義は、学生のレディネス（成熟度、準備度）によって受け入れ方が異なるので、ケーススタディや産業界で起っている具体例を話しながら理解しやすいように工夫することが求められる。
- ③ 実社会体験の少ない学生の理解を深めるために、適切な映像の使用、社会人講師による実体験談、若者の就労支援施設の見学会等で臨場感を引き出すことが望まれる。
- ④ 自己理解のためのアセスメントは、学生が興味を持ちやすく、主体的に参加できるので学生評価は高いが、半年13～14回の授業なので2回程度しか実施する時間

がない。自己理解テスト後の解説、フィードバック、希望する学生への個別キャリアアカウンティングが効果を持ち得るポイントであろう。1年生の基礎ゼミの授業で、自己理解をテーマにディスカッションすることも必要と思われる。

⑤ 日本企業とキャリア形成については、企業の人事部門のスタッフやキャリア形成支援担当者の現場の話聞くこと、会社のオフィスや生産工場を訪問することも考えられる。1年次を基礎理解、2年次をフィールドワークの年と位置づけると2年の演習で見学会を行ない、インターンシップにつなげることが出来よう。

⑥ レポートで職業人を訪ねて、仕事の内容や労働にまつわる喜び、苦しみを聞く作業は、学生間の個人差はあるもののかなり効果的であったと思われる。学生からもレポート学習について自分の体験を積極的に話しかけてくることが多い。

⑦ 働き方の多様化への対応について

女子学生は、結婚、出産、育児という男性とは違う役割があり、仕事との兼ね合いでキャリアデザインについて悩むことが多い。これについて、雇用形態の変化、雇用ポートフォリオ、育児・介護休業、ポジティブアクション、SOHO (small office, home office) について説明したが、もっと具体例を集めて特別の能力を持ったひとでなく普通の女性がどんな生き方、働き方が出来るかを講義する必要がある。今後の重要な課題である。

5. 提言

① グループ・エンカウンターを導入

自分の長所や適性、仕事と人生、働くことの意味について考えてはいるが、友達と話すまでになっていない学生が多い現状を考えると、自己理解や自己開示を進めやすい方法としてグループエンカウターの導入を試みる価値があると思われる。グループ・エンカウンターは、グループ・カウンセリングのひとつでグループ独自のダイナミズムを活用して、心のふれあい体験と自己発見により人間的成長やキャリア形成を進めようとする心理プロセスである。メンバーは、8～10名程度でメンバーの心理的成長を高めようとするもので、エンカウターの技術を習得したカウンセラー（ファシリテーターと呼ぶ）がリードする。フリー・ディスカッションよりも入りやすく、グループ・エンカウンターで発言する力をつけてからグループ・ディスカッションに入ると円滑に行くと思われる。

② コミュニケーション能力とアサーション・トレーニング

日本経団連が毎年実施している「新卒者採用に関するアンケート調査（2004年）」によると、企業が採用選考で重視する能力の第1位は昨年に続いて「コミュニケーション能力」である。コミュニケーションは、自己を表現・主張する能力と他人の表現・主張を聞きとる能力の両方が求められる。自己を主張する能力の開発のひとつに、アサーション・トレーニングがある。アサーションは「自分も相手も大切にしたい自己表現」と言われ、「自分の意見、考え、欲求、気持などを率直に、正直に、その場の状況にあった適切な方法で述べること」（日本産業カウンセリング学会監修「産業カウンセリング：ハンドブック」金子書房）と定義される。攻撃的な議論や非主張的議論と異なり、相手の納得も得やすい自己主張の方法で、自分も相手もWin-Winの関係と表現されることもある。ロールプレイやビデオ等によって教育することが可能だと思われる。

③ ジョハリの窓の活用

ジョハリの窓という考え方がある。

Aは、自分について自分も他人も知っている領域である。「よく気がつく」、「責任感が強い」、「時間にルーズである」等の自分自身が知っていることは自分で改善すればよい。

Bは、自分は知っているが他人が知らない部分で、他人に見せてないだけだから、自分で改良発展させて行けばよい。

Cは、自分は気がついていないが自分のことを他人が知っている領域である。企業では、上司が部下の長所を見抜いて伸ばし、短所を改めさせて能力開発に努めるが、部下本人の気づかない部分を引き出すのが上司の手腕である。学校では、指導教授や友達が当人のかくれた長所を見つけ、引き出す役割を負っている。

Dは、本人も周囲も気がついていない“自分”である。若い学生は、キャリア形成を考える際に、自分の狭い経験だけで得意と不得意、長所と短所を決めるのはもったいない。このDの部分を、読書、友達との議論、旅行、音楽、絵画鑑賞、スポーツ等によって充実させ、新しい自分をどんどん拡大して行くことが期待される。大学生活は、Dの部分を広げていく時期でもある。大学はそれをサポートする役割を負っている。

		自 分		
		知っている	知らない	
知っている	A	C	他 人	
知らない	B	D		

④ リーダーシップ訓練

リーダーシップは講義だけでなく実践によって習得出来るものであり、タテ社会

ではない学生時代こそ実践能力習得のチャンスである。それにはゼミの場を活用することが出来る。ゼミ開始時に15～20人のゼミ生にこのゼミでこの1年何をやりたいか議論させる。そうすると企業訪問、旅行、飲み会、他のゼミとの交流等の沢山の要求が出てくる。それぞれの項目に1～2名の責任者を希望によって決定し、その項目（プロジェクト）のリーダーとしてゼミ生全員をリードすることにする。例えば、企業見学の場合には、訪問先の決定、企業との交渉、日程調整等生きたマネジメントの勉強になる。

⑤ 読書発表会によって批判力を養成

学生を見ると読書量が不足しているだけでなく、ハウツー本に頼っていることが多い。2年生の演習（15～20人）で、総合雑誌を読んで興味のある論文や記事を5分程度で他のメンバーに紹介し、3～4分でその内容について批評する、ということを実施した。「総合雑誌って何ですか」という質問が出たので図書館につれて行って、文芸春秋、諸君、中央公論、世界などの棚でバックナンバーの所在を知らせる。

読み、書き、計算の能力は神大生は相当に高い。1回目は原稿用紙に書いてきて読み上げるが、2～3回やると急速に上達する。しかし、批評については著者の考えが白紙に絵具で描くようにそのまま受け入れられることが多い。例えば、自衛隊のイラク派遣反対の文を読めば反対派になり、賛成の文を読めば簡単に賛成意見になる。知識も少なく、思考力のトレーニングが出来てない若者の批判力を鍛えるには、ディベートや自分の考えと異なる立場から発見させる等、多面的なものの見方を養成する努力が必要である。自分の頭で考えることが出来る若者が少ないからこそ、そういうことが出来る若者は光るのである。

⑥ ショーウィンドウの外を見る発想

「試験に選択問題は出ますか」と聞いてくる学生がいる。「下記の5つの項目の中から正解を選べ」という学習の仕方で育ってくると、選択肢がないとどうしてよいか手がかりがない。これは、学生食堂に行って、そこに並べてあるものの中から昼食を選ぶのと同じで、本当に食べたいものが分かっているわけではない。私は、これを「ショーウィンドウの中の自己決定」と呼んでいる。ショーウィンドウの中に飾られてはじめて自分の視野に入ってくる。コンピュータによる情報検索がやり易くなった今日においては、特にこのことを意識する必要がある。ショーウィンドウの外を見る意識を持つこと、不測の事態への対応方法として5つくらいの解決策を考え、その中から最適解を選ぶというプロセスを自分で作ること等を学生といっしょにやってみせることで、問題発見能力と問題解決能力が向上すると思われる。

第1表 キャリアに関するアンケート I (授業開始時 2004.9)

5.....とてもそうである
 4.....かなりそうである
 3.....どちらともいえない
 2.....あまりそうではない
 1.....まったくそうではない

質問項目	5		4		3		2		1		計 人
	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	
1. 自分の将来の職業(進路)は、決まっていますか。	27	12%	60	27%	63	28%	50	22%	23	11%	223
2. 自分の将来の職業(進路)について、考えることがありますか。	104	47%	88	39%	23	10%	7	3%	1	1%	223
3. 自分の長所や適性について考えることがありますか。	49	22%	106	48%	45	20%	16	7%	7	3%	223
4. 自分の長所や適性について理解していると思いますか。	21	9%	74	33%	88	40%	32	14%	7	4%	222
5. 自分の長所や適性を知るために、自己分析テストや職業適性テストを受けたことがありますか。	73	33%	61	27%	24	11%	15	7%	50	22%	223
6. お互いの長所や適性について友達と話合うことがありますか。	17	8%	37	17%	71	32%	56	25%	42	18%	223
7. 職業の種類や内容について理解していますか。	11	5%	57	26%	97	43%	45	20%	13	6%	223
8. 職業の種類や内容について教育を受けたことがありますか。それはいつ頃ですか。(具体的に「高校1年」というように回答してください。)	31	15%	40	19%	33	16%	40	19%	68	31%	212
9. 「仕事と人生」や「働くことの意味」について考えることがありますか。	60	27%	77	35%	48	22%	29	13%	9	3%	223
10. 「仕事と人生」や「働くことの意味」について友達と話合うことがありますか。	25	11%	38	17%	66	30%	46	21%	48	21%	223
11. これまでに家業の手伝いやアルバイトなど職業の経験をしたことがありますか。それはいつ頃ですか。(具体的に「大学1年」というように回答してください。)	140	65%	48	22%	8	4%	4	2%	17	7%	217
12. 自分の将来の職業(進路)を考えるために、職業の体験(アルバイト等)をしたと思いますか。	131	59%	57	26%	20	9%	7	3%	7	3%	222
13. 中学・高校時代に進学以外の進路や職業の選択について指導を受けたことがありますか。それはいつ頃ですか。(具体的に「高校1年」というように回答してください。)	44	20%	34	15%	30	14%	27	12%	86	39%	221
14. 職業の選択や進路(就職、大学院進学)について親と話合ったことがありますか。	82	37%	77	35%	27	12%	21	9%	16	7%	223
15. 職業の選択や進路(就職、大学院進学)について友達と話合ったことがありますか。	50	22%	78	35%	49	22%	28	13%	18	8%	223
16. 将来の職業を考えて、学校の授業計画を立てていますか。	33	15%	64	29%	77	35%	30	13%	19	8%	223
17. 将来の職業を考えて、学校以外の場における学習計画を立てていますか。	27	12%	32	14%	65	29%	50	22%	49	23%	223
18. 国家資格や検定の資格を取る計画がありますか。	98	43%	58	26%	42	19%	10	4%	17	8%	223
19. 履歴書の書き方や面接の受け方について授業を受けたことがありますか。それはいつ頃ですか。(具体的に「高校1年」というように回答してください。)	43	20%	35	16%	23	11%	22	10%	96	43%	218
20. 「インターンシップ」とは、何か知っていましたか。	49	22%	50	23%	22	10%	30	14%	71	31%	222
21. 社会で活躍した人が如何にして自分の能力を高めてきたか、進路を開拓していったかを知りたいと思いますか。	123	55%	64	29%	22	10%	10	4%	4	2%	223
22. 職業の選択や進路(就職、大学院進学)の専門家がいれば相談したいと思いますか。	103	47%	84	38%	25	11%	2	1%	7	3%	221
23. フリーターもひとつの進路として考えられますか。	15	7%	21	9%	31	14%	41	18%	115	52%	223
24. 派遣社員もひとつの進路として考えられますか。	19	9%	31	14%	55	25%	46	21%	72	31%	223
25. 社会で活躍した人の伝記や自叙伝を読みたいと思いますか。	52	24%	54	24%	69	31%	27	12%	19	8%	221
26. 職業の選択や進路(就職、大学院進学)について、先輩の話を聞きたいと思いますか。	92	41%	78	35%	33	15%	12	5%	8	4%	223
27. 職業の選択や進路(就職、大学院進学)について、親や祖父母の話を聞きたいと思いますか。	38	17%	73	33%	61	27%	25	11%	26	12%	223

第2表 キャリアに関するアンケートⅡ (授業終了時 2005.1)

- 5……とてもそうである
- 4……かなりそうである
- 3……どちらともいえない
- 2……あまりそうではない
- 1……まったくそうではない

質問項目	回答項目										計 人
	5		4		3		2		1		
	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	
1. 自分の将来の職業(進路)は、決まっていますか。	22	13.3%	45	27.3%	53	32.1%	37	22.4%	8	4.8%	165
2. 自分の将来の職業(進路)について、考えることがありますか。	81	49.4%	65	39.8%	15	9.1%	3	1.8%	0	0.0%	164
3. 自分の長所や適性について考えることがありますか。	49	29.9%	67	40.9%	39	23.8%	8	4.9%	1	0.6%	164
4. 自分の長所や適性について理解していると思いますか。	13	8.1%	54	33.8%	61	38.1%	27	16.9%	5	3.1%	160
6. お互いの長所や適性について友達と話し合うことがありますか。	9	5.5%	44	26.7%	53	32.1%	42	25.5%	17	10.3%	165
7. 職業の種類や内容について理解していますか。	5	3.1%	42	26.1%	66	41.0%	42	26.1%	6	3.7%	161
9. 「仕事と人生」や「働くことの意味」について考えることがありますか。	44	26.8%	63	38.4%	42	25.6%	10	6.1%	5	3.0%	164
10. 「仕事と人生」や「働くことの意味」について友達と話し合うことがありますか。	17	10.3%	35	21.2%	45	27.3%	47	28.5%	21	12.7%	165
11. これまでに家業の手伝いやアルバイトなど職業の経験をしたことがありますか。それはいつ頃、どんな仕事ですか。(具体的に「大学1年、コンビニの店員」というように回答してください。)	95	59.4%	40	25.0%	7	4.4%	4	2.5%	14	8.8%	160
12. 自分の将来の職業(進路)を考えるために、職業の体験(アルバイト等)をしたいと思いますか。	100	60.6%	45	27.3%	10	6.1%	6	3.6%	4	2.4%	165
14. 職業の選択や進路(就職、大学院進学)について親と話し合ったことがありますか。	50	31.1%	69	42.9%	22	13.7%	16	9.9%	4	2.5%	161
15. 職業の選択や進路(就職、大学院進学)について友達と話し合ったことがありますか。	35	21.6%	61	37.7%	35	21.6%	24	14.8%	7	4.3%	162
16. 将来の職業を考えて、学校の授業計画を立てていますか。	22	13.4%	56	34.1%	60	36.6%	20	12.2%	6	3.7%	164
17. 将来の職業を考えて、学校以外の場における学習計画を立てていますか。	24	14.7%	38	23.3%	46	28.2%	36	22.1%	19	11.7%	163
18. 国家資格や検定の資格を取る計画がありますか。	67	41.4%	48	29.6%	27	16.7%	12	7.4%	8	4.9%	162
21. 社会で活躍している人が如何にして自分の能力を高めてきたか、進路を開拓していったかを知りたいと思いますか。	79	48.8%	50	30.9%	27	16.7%	4	2.5%	2	1.2%	162
22. 職業の選択や進路(就職、大学院進学)の専門家(キャリアカウンセラー等)がいれば相談したいと思いますか。	72	44.7%	53	32.9%	23	14.3%	9	5.6%	4	2.5%	161
23. フリーターもひとつの進路として考えられますか。	7	4.3%	14	8.5%	29	17.7%	43	26.2%	71	43.3%	164
24. 派遣社員もひとつの進路として考えられますか。	9	5.5%	26	15.9%	46	28.0%	37	22.6%	46	28.0%	164
25. 社会で活躍した人の伝記や自叙伝を読みたいと思いますか。	35	21.2%	52	31.5%	48	29.1%	23	13.9%	7	4.2%	165
26. 職業の選択や進路(就職、大学院進学)について、先輩の話を聞きたいと思いますか。	51	31.1%	71	43.3%	29	17.7%	6	3.7%	7	4.3%	164
27. 職業の選択や進路(就職、大学院進学)について、親や祖父母の話を聞きたいと思いますか。	29	17.7%	62	37.8%	46	28.0%	16	9.8%	11	6.7%	164

第3表 キャリアに関するアンケートⅢ(授業前後の比較)

- 5……とてもそうである
 4……かなりそうである
 3……どちらともいえない
 2……あまりそうではない
 1……まったくそうではない

(注)左欄:授業終了時

(注)右欄:授業開始時

質問項目	回答項目									
	5		4		3		2		1	
	%		%	%		%	%		%	
1. 自分の将来の職業(進路)は、決まっていますか。	13.3%	12%	27.3%	27%	32.1%	28%	22.4%	22%	4.8%	11%
2. 自分の将来の職業(進路)について、考えることがありますか。	49.4%	47%	39.6%	39%	9.1%	10%	1.8%	3%	0.0%	1%
3. 自分の長所や適性について考えることがありますか。	29.9%	22%	40.9%	48%	23.8%	20%	4.9%	7%	0.6%	3%
4. 自分の長所や適性について理解していると思いますか。	8.1%	9%	33.8%	33%	38.1%	40%	16.9%	14%	3.1%	4%
6. お互いの長所や適性について友達と話し合うことがありますか。	5.5%	8%	26.7%	17%	32.1%	32%	25.5%	25%	10.3%	18%
7. 職業の種類や内容について理解していますか。	3.1%	5%	26.1%	26%	41.0%	43%	26.1%	20%	3.7%	6%
9. 「仕事と人生」や「働くことの意味」について考えることがありますか。	26.8%	27%	38.4%	35%	25.6%	22%	6.1%	13%	3.0%	3%
10. 「仕事と人生」や「働くことの意味」について友達と話し合うことがありますか。	10.3%	11%	21.2%	17%	27.3%	30%	28.5%	21%	12.7%	21%
11. これまでに家業の手伝いやアルバイトなど職業の経験をしたことがありますか。それはいつ頃、どんな仕事ですか。(具体的に「大学1年、コンビニの店員」というように回答してください。)	59.4%	65%	25.0%	22%	4.4%	4%	2.5%	2%	8.6%	7%
12. 自分の将来の職業(進路)を考えるために、職業の体験(アルバイト等)をしたいと思いませんか。	60.6%	59%	27.3%	26%	6.1%	9%	3.6%	3%	2.4%	3%
14. 職業の選択や進路(就職、大学院進学)について親と話し合ったことがありますか。	31.1%	37%	42.9%	35%	13.7%	12%	9.9%	9%	2.5%	7%
15. 職業の選択や進路(就職、大学院進学)について友達と話し合ったことがありますか。	21.6%	22%	37.7%	35%	21.6%	22%	14.8%	13%	4.3%	8%
16. 将来の職業を考えて、学校の授業計画を立てていますか。	13.4%	15%	34.1%	29%	36.6%	35%	12.2%	13%	3.7%	8%
17. 将来の職業を考えて、学校以外の場における学習計画を立てていますか。	14.7%	12%	23.3%	14%	28.2%	29%	22.1%	22%	11.7%	23%
18. 国家資格や検定の資格を取る計画がありますか。	41.4%	43%	29.6%	26%	16.7%	19%	7.4%	4%	4.9%	8%
21. 社会で活躍している人が如何にして自分の能力を高めてきたか、進路を開拓していったかを知りたいと思いませんか。	48.8%	55%	30.9%	29%	16.7%	10%	2.5%	4%	1.2%	2%
22. 職業の選択や進路(就職、大学院進学)の専門家(キャリアカウンセラー等)がいれば相談したいと思いませんか。	44.7%	47%	32.9%	38%	14.3%	11%	5.6%	1%	2.5%	3%
23. フリーターもひとつの進路として考えられますか。	4.3%	7%	8.5%	9%	17.7%	14%	26.2%	18%	43.3%	52%
24. 派遣社員もひとつの進路として考えられますか。	5.5%	9%	15.9%	14%	28.0%	25%	22.6%	21%	28.0%	31%
25. 社会で活躍した人の伝記や自叙伝を読みたいと思いませんか。	21.2%	24%	31.5%	24%	29.1%	31%	13.9%	12%	4.2%	9%
26. 職業の選択や進路(就職、大学院進学)について、先輩の話を聞きたいと思いませんか。	31.1%	41%	43.3%	35%	17.7%	15%	3.7%	5%	4.3%	4%
27. 職業の選択や進路(就職、大学院進学)について、親や祖父母の話を聞きたいと思いませんか。	17.7%	17%	37.8%	33%	28.0%	27%	9.8%	11%	6.7%	12%

第4表 キャリア形成論の授業項目別評価

「キャリアデザイン論」の次の講義は、役に立ったでしょうか(講義を受けなかった項目は、回答しないこと)

- 5.....とてもそうである
- 4.....かなりそうである
- 3.....どちらともいえない
- 2.....あまりそうではない
- 1.....まったくそうではない

質問項目	回答項目										計 人
	5		4		3		2		1		
	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	
①キャリア開発の手順 (キャリアガイダンス)	27	17.0%	85	53.5%	30	18.9%	12	7.5%	5	3.1%	159
②交流分析 (エゴグラム、対人的な性格分析テスト)	54	34.0%	68	42.8%	27	17.0%	6	3.8%	4	2.5%	159
③VTR「あなたの夢は何ですか」、グループ・ディスカッション	37	24.0%	63	40.9%	44	28.6%	9	5.8%	1	0.6%	154
④企業が求める能力 (エンロイビリティ、問題発見能力等)	37	25.0%	69	46.6%	36	24.3%	4	2.7%	2	1.4%	148
⑤進路の選択基準 (シャインのキャリアアンカー等)	23	15.6%	66	44.9%	46	31.3%	10	6.8%	2	1.4%	147
⑥生涯発達とキャリア形成理論 (レビンソン等)	22	14.8%	57	38.3%	57	38.3%	9	6.0%	4	2.7%	149
⑦VTR「アメリカの大学におけるベンチャー教育」	50	32.7%	62	40.5%	32	20.9%	9	5.9%	0	0.0%	153
⑧日本の企業内教育とキャリア開発	20	14.6%	54	39.4%	54	39.4%	9	6.6%	0	0.0%	137
⑨VTR女たちの10年戦争 一雇用機会均等法、ライフプラン	3	5.1%	19	32.2%	26	44.1%	6	10.2%	5	8.5%	59
⑩VPI職業興味テスト (ホラント) 等のアセスメント	57	38.0%	58	38.7%	28	18.7%	6	4.0%	1	0.7%	150
⑪企業内のキャリアデザイン支援制度 (自己申告、社内公募、FA制等)	27	18.8%	62	43.1%	46	31.9%	7	4.9%	2	1.4%	144
⑫レポート「先輩の職業選択と職業能力の開発」	29	18.5%	71	45.2%	42	26.8%	13	8.3%	2	1.3%	157